



新 生

第 46 巻 号
秋 号
新 生 会 広 報

しほ よ き も の な り、 さ れ ど しほ そ しほ け う し な な に こ れ あ ち な ん ち
鹽 は 善 き も の な り、 然 れ ど 鹽 も し 其 の 鹽 氣 を 失 は ば、 何 を も て 之 に 味 つ け ん。 汝 ら 心
の 中 に 鹽 を 保 ち、 か つ 互 に 和 く べ し

— マルコ 伝 第 9 章 50 節 —

Salt is good: but if the salt have lost his saltness, wherewith will ye season it? Have salt in yourselves, and have peace one with another. — ST. MARK CHAPTER 9:50 —

米軍普天間飛行場の移設予定地である名護市辺野古の埋め立てが始まり、四年十ヶ月が経過した。投入された土砂の量は全体の約一六%にすぎない。このペースが続いたとして、あと二五年かかることになる。山から削られた土砂はダンプで二つの港に運ばれ、運搬船に積み替えられ辺野古へ運ばれる。ダンプを一台でも減らすための抗議行動が連日行われている。一つの港では、ダンプの一日の延べ台数は、抗議運動がないと約一〇〇台だが、出入り口でゆっくり歩くことで、八〇〇〜九〇〇台に抑えている。その差二〇〇〜三〇〇台は、運搬船一隻分に当たる。

私たちの先輩は、新たな基地建設や訓練場を、非暴力の精神と直接行動によって断念をさせてきた。その精神は、今も引き継がれている。ダンプが止まると、運転手に一礼し抗議者は歩き始める。急な飛び出しや危険な行為ではなく、ゆっくり歩く非暴力の抗議運動に徹している。ダンプの運転手の勤務形態は、一日何往復というノルマではなく、全日(一三時間)、あるいは半日(六時間)の時間勤務のためか、無理な運転をする運転手は多くはいない。

ある女性の抗議者は、写真のような手作りの風船を作った。当初は文句を言っていた運転手も、埋め立てを少しでも遅らせたいという私たちの

「土砂キリ」の抗議活動の様子

気持ち、次第に理解をしてもらえるようになった。

沖縄県警は抗議者を規制するが、本心は基地建設反対の機動隊員も多い。ダンプの前をゆっくり歩いていけると「上司が見ているので、申し訳ないですが背中を押しますね」と軽く背中を押された。ある時、周りに誰もいなかったせいか、突然「うちの妻は今妊娠七ヶ月なんです」と言われた時は戸惑った。咄嗟に「出産の日は、休暇取って、立ち合うといよ。何もできないけど、傍にいて奥さんの手を握ってあげなよ」と自分の経験を語った。立場は敵対関係だが、非暴力の平和行動で、理解を得てきたと思う。ささやかな楽しい会話をしながら、毎日ダンプの前を歩いている。



西浦昭英

一九五九年生まれ。三五年間、私立中高の教員を勤める。修学旅行の引率で沖縄を訪れたことがきっかけで、四年前、早期退職し、沖縄・名護に移住した。日本キリスト教会沖縄伝道所会員。



実りの営み いとしほ

伸ばしに伸ばし

茂りに茂らせ

秋風 しゅうふう おもむろに きた 来る きた とき

棄つべきを棄て

留むべきを留む とど

すでに実りの営みに入る

精力をただこの一事に集む

秋の働きは げんしゆく 厳粛なり

後藤静香著

「天よりの声」より



原 慶子

「地球人類」と「地球市民」の

幸せのために

二一世紀になって以来、世界中で大地震や大洪水などとても自然災害が勃発している。余りに頻繁に起るので、個人的には何ともしようがない。被災地や被災者に同情するのが精いっぱい。直近では、モロッコ地震とリビアの大雨による大洪水など（九月現在）いずれも政治も経済も不安定な国を襲っている。

二一世紀になってからの地球に起っている様々の出来事を予測し何とかせねばの思いで、福田赳夫が「OBサミット」(Inter Action Council of Former Heads of state and government) の設立を提案したのは、一九八二年。

第一回年次総会が開催されたのは一九八三年、オーストリア・ウィーンにおいてでありました。

先日、福田赳夫・福田康夫の福田事務所所長を長年勤めてきた悴田義則さんが「OBサミットの真実・福田赳夫とヘルムート・シュミットは何を願っていたのか。」渥美桂子・ダイヤモンド社・二〇二三年八月二十九日発行」を届けてくれました。改めて福田赳夫の偉大さにふれ、今

こんな時代にこの著書を書いてくださった渥美桂子さんに心よりの敬意を表します。福田赳夫の「OBサミット」設立に際し「世界人類のために成功させる」という決断はかたいものでした。長期的な地球人類問題に取り組むためには、世界の国々からの見識の高いリーダーたちの結束が必要だったのです。一九八七年三月開催の「ローマ宗政会議」の議長は福田赳夫が務めました。福田は会議冒頭「まず、それぞれの参加者の『心』が一番大切に行っていることを話してほしい」と言いました。「宗教者・政治家両者は、個々の人間が、人権、文化、信仰やイデオロギーの相違を超越した、（人間性への信頼）を持つべきなのだ」という信念を共有していることが改めて認識されたのです（同上）。

こんな高邁なヴィジョンを示した福田赳夫という政治家の精神の高さとその実行力に大変感動しました。福田赳夫の地球ヴィジョンの原点は地球人類と地球環境にあったのです。

父、原正男は「地球市民祈りの家」を建設するように、私たちに遺言を留めました。福田が心魂から願ったのは（軍事ではなく、経済や文化など心と心のふれ合い）でした。地球人類の幸せのために!!（この著書の一読を心よりお勧めいたします。）

約四五〇年続いた琉球王朝も、明治政府の廃藩置県によって幕を閉じた。その方法が強引だったことから「琉球処分」と呼ばれている。

その後は知事相当職の県令が任命され、高圧的な支配がはじまった。

琉球人同化のための皇民化教育が重視され、日清・日露戦争に巻き込まれていく。両戦争は沖縄の人々の生活習慣を大きく変える契機となった。また第一次世界大戦においては

一時的に景気の高揚があったものの、戦後世界的な砂糖の暴落があり、経済は最悪化し、本土への移住や外国・南洋諸島への移民が増した。

第二次世界大戦においては文字通り本土防衛の捨て石となり、悲惨さを極める地上戦が行なわれた。

物心両面で壊滅的被害を受けたその沖縄を一九五二年サンフランシスコ条約で米軍統治下に放り出した。

その後、専制的な米軍の支配の下で鬱屈しながら過すことになる。

その間、さまざまな手段で抗い続けるも日本政府や国民の十分な支援も得られず、泣き寝入りを余儀なくされることほとんどであった。

しかし、内に溜まった不満は、島ぐるみ闘争やコザ騒動など表に出るようになり、沖縄の教職員が中心となって進めた「祖国復帰運動」も相俟って爆発寸前まで高まったため、日米両政府は日本復帰を認めざるを得なくなった。

一九七二年、二七年間に亘る米軍統治は終わったものの、前の戦争体験から切に平和を希求する県民の悲願は無視され、米軍基地はほとんどそのまま残されることになった。

そもそも辺野古新基地建設問題の発端は、三人の米兵による幼い少女への暴行事件であった。

この痛ましくも悲惨な事件は、これまでになく県民の怒りを引き起し、間を置かず開催された県民集会は、県知事を含む八万五千人が結集

し、集まった人たちからふつふつとした怒りが感じられた。

論壇

理不尽

松永 久夫

このような住民の怒りの高まりにあわてた日米両政府はSACOと呼ばれる特別委員会を設置し、基地問題を検討し、時の橋本首相から普天間基地の全面返還が発表された。

普天間基地の場所は、戦前は多くの住宅や公共施設のあったところで、戦争で焼け野原になったその場所に銃剣とブルドーザーで造られた基地である。

そこで県民の願いを訴えるため、

県議会・県内全市町村首長および議会議長の署名による「建白書」を提出したが、あえなく無視された。

そのような中で政府は予算をダシにさまざまな圧力を強めてきた。当初、県内移設に反対し当選したはずの仲井眞知事もとうとう埋め立て承認させられた。

まもなく行われた知事選挙で、那覇市長を辞任し出馬した翁長候補が一〇万票もの大差をつけ当選した。当選後の翁長知事が並々ならぬ反対の意思を持っていることを警戒さ

れたため直接の対話が実現せず協議はなかなか進展しなかった。

しかし埋め立て承認の事由に、いくつかの不備が認められることから承認の取り消しを行なうことになったが、それに対し政府が信じられないような行為に出てきた。

本来は、行政が理不尽な公権力をしようとする場合に、国民の救済を訴える手段として「行政不服審査法」がある。しかし何とれっきとした国の行政機関である沖縄防衛局が、この法を悪用し、こともあろうに、

私人になりすまし、同じ行政機関である国交省に訴え、妥当性の審議を抜きに承認の取り消しは無効であるとの裁定を下された。

それから間もなくして、土砂の投入する旨の通知が出された。反対の意を貫きたい翁長知事は病いを押しつけて最後の力を振り絞り、最大の抵抗手段である承認の「撤回」を行なった。

その後、意を継承した玉城候補が史上最高の得票数で当選し、民意は十分に示されたはずであるが、政府は、取り消しの時と同様の手口で撤回も無効であると裁定した。

土砂の投入が始まったものの、さすがに軟弱地盤の存在は隠せず設計変更せざるを得なくなり変更申請が出されたが認められるものではなかった。しかし政府は三たび同様の手口で迫り、最高裁もこれを認めた。

しかしこの手法は、行政不服審査法や地方行政法に触れると多くの法学者によって指摘されている。

また、数回に亘る国政選挙や、辺野古移設の是非を問う県民投票でも反対の民意は十分に示されており、この国の民主主義が問われている。激戦地となった南部地域の遺骨混じりの土砂を埋め立てに使う、おぞましい計画まで持ち上がっている。



新型コロナウイルスによる臨時特集⑮

コロナに負けるな、自由な意思で闘おう！

原 慶子

人類にとつての脅威は、 コロナウイルスではない

表向き行動が自由になったかのような、パンデミック後の現在、それはあくまで見せかけであつて、コロナ禍における「バイオセキュリティ」

（健康管理を口実にした最も効果的な統治）はより一層強化されているようにも思われます。同時にグループやツイッターなどに代表されるテクノロジー企業によつて私たちの生活の隅々まで監視、統制されるようになりまし。 「民主的にも正統化（legitimate）されていない一部のテクノロジー企業が、社会・経済の大部分を左右する。しかも市民自らが自発的に従うことに慣れてしまつてい。私がつ『全体主義』はこうした状況です。」（マルクス・ガブリエル談）。

新生会においては今年度（二三年）より、全ての行事を復活させております。しかしこの三年有余の間にスタッフの意識はすっかり「コロナ対応行政指導」にマインドコントロールされ、精神的クリエイティビティも自由な意思も抑圧されたまま

です。新型コロナウイルス感染症への恐怖心は、人々の自発的な積極性や行動意欲を奪つてしまいました。感染も終息してない現在、人々の心理的萎縮はただ事ではありません。この状況はおそらく日本ばかりではなく、地球全体に及んでいるのだと思います。

私はこの「コロナ特集」にもずつと書き続けてきたように、脅威は「COVID19」ではなく、コロナを口実に強化される「監視資本主義」（新自由主義の窮極）であり、デジタルテクノロジー絶対化をもくろむ「デジタル全体主義」であると思つてきました。「二〇世紀の独裁主義は『目に見える悪』でした。強制収容所であり、何十万人という単位で大量虐殺も行われた。しかしグループは違。便利で見た目も美しく、サービスを無料で提供している。一見、悪には見えません。でもだからこそ、この新しい敵は危険なのです。これは自由のための闘争です。」（マルクス・ガブリエル談）。

コロナ感染症がなくなることはまづ考えられないが、コロナパンデミックを機に支配的になったデジタル全体主義には、「人間」は存在していないのです。人間性を奪われた

「形骸となった身体」が「数字」として数えられているに過ぎません。またデジタル化とは、人間の精神の自由を否定し、全てをアルゴリズム（問題を解決したり目標を達成するための計算方法や処理方法のこと。大量なデータを高速に処理するためプログラムへ組み込んだ一定の計算手順や処理方法）に閉じ込めようと言ふことです。

「アン」ワッス無き人間性は 「神の愛」に気づかず

バイオテクノロジーとセキュリティが強化され、人間の自由意志の否定（非常事態）が正統化され、今や主権となったデジタル全体主義に対し、私は徹頭徹尾、対決の姿勢をとつてきました。私にとつて何よりも大切なことは「人間の自由な精神とそこから生まれる真の創造精神」だからです。私にとつて生きるとは、私の自由精神に閃く事柄を形にしていくことだからです。新生会の仕事は、私の自由精神が決断したことであり、私のクリエイティビティは、神の息吹き（ブネウマ）によつて育まれていきます。ですから人間の身体的健康を口実にして、人間の自由精神を否定するデジタルテクノロジーの権威主義は認める訳にもいけません。許すことはできないのです。私は子供の時から己の内面と外側の世界を区別してました。一般的には、内面は問題にされることなく、外

側（社会的側面）ばかりに人々の関心はいくのです。ですから成長するに従つて社会的側面より、己の内面世界を重視するようになりました。そして「自己」とは、中心に「魂」があり、その外側に「心」があり、その外側に精神があり、一番表側に「意識、知覚」があり、その全てが体の中にあるのです。生物科学的に言えば「脳」なのでしようが、「自己」という人格体（Personality）そのものは、宇宙的生命エネルギーに守られているのです。人格体の中核の「魂」は、「宇宙に遍満し、全宇宙を貫流して脈動する永遠の創造的エネルギー」（井筒俊彦「意味の深みへ」）を、神から与えられているのです。

このような宇宙的存在存在感に対し「我が意を得たり」の人もいるでしょうし、「想像もつかない迷信ではないか」という人もいるでしょう。しかし「魂のできごと」「魂の思索」「宇宙との対話」「神に祈ること」など、宇宙と結びついた人間の言葉や在り様を、この現実社会に現象（顕現）させることは容易なことではありません。しかし宇宙の生命エネルギーを実感する人は、日常的経験世界において、宇宙のアプローチを行うこと、魂の言葉、深層にある言葉を人間社会に向かつて表明すること、そして行為として現わす責任があるのではないのでしょうか？それは、人間の精神を「真・善・美」に開かせることになるでしょう。

創立記念式典

新生会は去る七月二八日にホテルメトロポリタン高崎において、創立六六周年記念式並びに祝会を執り行いました。過去三年間の記念式は感染症対策を行った上での開催でしたので、会場の変更や規模の縮小して行っておりまして。新生会では今年度からできるだけ行事を元に戻していこうという方針に沿って、三年ぶりにコロナ禍以前の形で創立記念式や祝会を開催しました。

新生会では記念式に職員として永年に亘る勤続を称え、永年勤続表彰を行っています。今年は勤続三五年が五名、勤続三〇年が五名、勤続二五年が四名、勤続二〇年が七名、勤続一五年が四名、勤続一〇年が八名、勤続五年が一四名の計四七名の職員の方が表彰され、原慶子理事長より表彰状と副賞が授与されました。

永年勤続被表彰者を代表して勤続三五年の軽費老人ホームA型榛名春光園の栄養士として勤務されています山田仁美さんが謝辞を述べられました。原正男名譽理事長との出会い、ご縁から就職することになった山田さんは新生会が青春・結婚・出産・育児と人生の学びの場となった

そうです。

今では多くの職員が育児休業ですが、平成六年に山田さんが初の育児休業取得者となり、ママさん職員として仕事と育児の両立をされてこられました。謝辞では『罪悪感を持ち、思い悩んだ日々もありました。そんな或る時、居住者から「家事や子育てに完璧を求めない。適度に手を抜きなさい。」と言葉をかけていただいたことで心に余裕を持つことができました』と、職場や周囲のサポートにより子育ての大変な時期を乗り越えてこられたことを振り返っていました。『皆様に少しでも満足していただけるよう心こもった食事作りが私に与えられた責任ある仕事、と思っています。』と表彰を賜る誇りと感謝を述べられました。



被表彰者記念撮影

聖守護天使の祈りと共に



奨励者 鈴木育三

榛名荘新生会 創業者バルナバ 原正男先生が逝去されて二五年目を迎えます。今日私たちは、

榛名荘・新生会の中心にある礼拝堂で逝去記念礼拝を守っています。記念礼拝とは、祈りをもって、故人の生涯、働きを想起、回想することにあります。

今朝、「榛名荘・新生会創業の精神」が刻まれた碑文を改めて読みました。また、石に刻まれた「新生会の誓いの言葉」を読みました。この碑文の裏には次のように刻まれています。「新生会創立以来、表記の言葉を胸に秘めて老人福祉サービスと施設の充実に努力してまいりました。創立三〇周年にあたりこの心を新生会のビジョンとして後世に伝えます。 原正男」

次に、榛名荘・新生会の祈りの原点である最初の聖守護天使聖堂を訪れました。この小さな聖堂は、二〇歳で逝去された瀧谷律子さんが遺贈された基金をもとに一九四八年二月二四日に竣工されました。

堂内のタブレットには「此の聖守護聖堂は、主に在って眠れるドルカス瀧谷律子及び逝去せる莊友の為に建立。願はくは彼等の靈魂主の御憐

みによって平安に息わんことをアーメン」と銘記されています。

この最初の聖守護天使礼拝堂は、榛名荘の発展とともに手狭になり、一九六〇年、榛名荘・新生会の中央に新礼拝堂が建てられました。その時の聖堂聖別の証には、この礼拝堂を『聖守護天使聖堂』と称すと記されています。

一九八九年改修が行われた折、祭壇正面に聖守護天使と四人の小天使のステンドグラスが奉獻されました。それは、原正男・ツヤ夫妻が、榛名荘結核療養所事業に邁進するなかで、四人のお子たちを亡くされ、悲嘆に暮れるお二人に、靈的指導者であったステパノ木村兵三神父は『お子たちは、榛名荘病院の人柱である』と、慰められたことに由来するものです。

木村神父は、榛名荘の看護師として献身奉仕された「神愛修女会」の創設者でもありました。

この聖守護天使聖堂は、榛名荘・新生会で療養・生活する人々と医療・介護に従事する職員・居住者の祈りの場であり続けてきました。

まことに原正男・ツヤ御夫妻は、祈りの人でありました。お二人が大切にしていた「神を愛する者たち、つまり御計画各に從がつて召された者たちには、万事が益となるように共に働く」(ロマ書八章二八節)との聖句を胸に留め置き、祈りをもって日々の職務に励みたいと思いません。

特集・ワークキャンプ 夏のボランティア復活

二〇二三年。今年の夏はここ数年稀に見る酷暑の夏となりました。全国各地で猛暑日の日数の更新も大きく報じられました。

新生会の夏と言えば、欠かせないのがボランティアです。毎年県内外の学生さんたちが来会され、心泉の家に宿泊して体験学習を行っています。居住者や職員との交流を通して、自己成長につながる夏季ボランティアワークキャンプ。この期間は、受け入れる私たち職員にとっても、学生さんたちから多くのことを学び、自分自身を振り返るきっかけを与えてくださる時間として大切に守ってきました。しかしながら新型コロナウイルスの流行により、二〇一九年の夏を最後にボランティアの受け入れも自粛されてきました。何か足りない、そんな夏のモヤモヤに終止符を打つべく今年は四つの学校が来会してくださいました。できる限りの感染予防と事前準備。理解と歩み寄りによって実現した四年ぶりの再会は、新生会内の各施設においてそれはステキな交流の時を与えてくださいました。

今年来会された学校の担当教諭の皆様からメッセージを頂きましたのでご紹介させていただきます。

立教女学院小学校奉唱会 〈七月二〇日〉

七月二〇日（木）、立教女学院小学校聖歌隊児童が、奉唱会にお伺いしました。春光園・憩の園・ジョージが丘での讚美を通じた交わりの時は、神様への感謝をより深く感じるかけがえのないひと時となりました。子ども達の歌を、笑顔で聴いてくださる方、一緒に歌ってくださる方、涙ぐみながら聞き入ってくださいる方。皆様の姿を前に、子ども達の歌声にも一層心がこもったように思います。

子ども達からは「初めてお会いしたのに、優しい笑顔で包み込んでくださり、出会えてよかったと心から思った」「一緒に神様への讚美を歌えて、心があたたかくなった」「手を握っていたら、ふわふわして優しい手だった。ずっと忘れない」など、お会いできたことから得られた喜びにあふれる声が挙がりました。

神様への讚美を通して、距離や場所を超えてつながることができ幸せをいただいたことに心より感謝しております。

（立教女学院小学校 杉本祥子）



立教女学院中学校ワークキャンプ 〈七月二四日～二六日〉

二〇二三の夏は大変暑かったのですが、その理由は地球温暖化だけでなく、キャンプの再開でした。コロナ第五類に移行して間もなくキャンプを準備し始めたものの、生徒たちにとってキャンプそのものが何であるか伝わらず、何度声かけても応募がなく、三年のブランクの大きさを感じました。そんな中、応募してくれた九名は、新生会キャンプが一体何なのかを考える三日間だったことでしょう。経験の積み重ねの大切さを思わされました。



（立教女学院中学校 大内麻理）

キャンプではその問いに応答するように、原慶子先生と鈴木育三先生のお話とお励ましがありました。お言葉を胸にワークに出かけると、職員の方々のお支えと高齢者の温かいお声がけにより、ワークが一層充実した時となりました。また、自ら志願してこの新生会に辿り着いたことは、大きな成長と自信につながったと振り返りにみんなが書いています。そして偶然出会った方たちとの語らいと存在を肯定された体験は、想像以上に生きる意味やその後の人生に揺らぐことのない平和の確信を与えられています。心から感謝いたします。

共愛学園高等学校ワークキャンプ

七月二十六日～二十八日

毎年、暑い夏休み生徒と共に三泊四日でワークキャンプを行い、三年ぶりに訪れた新生会は私たちを温かく迎え入れてくれました。生徒は、学校での成長だけでなく、ワークキャンプを通して表情も、相手に伝える気持ちも、分かち合いも、教員が教えることの出来ない経験を通して、彼らは目を見張る程の成長を遂げていきます。その姿に触れて、引率の教員たちも大きな刺激を受け、また職務に戻っていきます。

聖書に種がまかれ、育ち、成長していく話があります。まさに新生会ではたくさんの種がまかれ、生徒に関わってくださる全ての方々に育んでいただき、その結果二期からの彼らの生活は大きく変わります。本当に大きな恵みであると感謝しています。

共愛学園では、毎週水曜日に「社会福祉」の授業で若林先生（誠の園園長）にお越しいただき、そのカリキュラムの一環としてワークキャンプを実施しております。今年度は特に、人と人が触れ合うことでわかること、そばにいて感じる事、その空間の中で漂う空気から感じる事など、生徒はコロナ禍で忘れていた

ものを取り戻すことが出来た日々でもありました。戸惑って泣くことも、誰かを頼ることも、人の優しさに触れて元気をもらうことも、このワークキャンプでしか経験できない貴重なものであります。万全の態勢で受け入れをしてくださった新生会の皆様に心から感謝し、次年度も生徒の成長を楽しみに実施していただきたいと願っております。

(共愛学園高等学校 原田 恵)



玉川聖学院ワークキャンプ

七月三十一日～八月三日

玉川聖学院の夏のワークキャンプは一九八〇年に始まり、四〇年以上にわたって引き継がれてきました。二〇二〇年から二〇二二年までの三年間はコロナ禍のためオンラインでの交流を持たせていただき、新生会との繋がりを絶やすことなく、宿泊でのワークキャンプを再開できるようにと祈り続けてまいりました。

そして、二〇二三年の夏、願っていた三泊四日のワークキャンプが復活し、久しぶりの夏の榛名。かつての対面でのワークを経験した生徒たちは皆卒業し、参加者全員が初めての夏の榛名となりましたが、新たな気持ちで参加した生徒たちは人と出会い、自分と向き合い、体験を通して考えたことをわかち合いながら貴重な四日間を過ごしました。

とりわけ、春光園の夏祭りでの涙を流しながら「私は何もたいしたことではないのに、新生会の皆さんはこんなにも喜んでくださった」と話した生徒の言葉には、体験を通してこそ得ることのできる、かけがえない成長の糧を見たような気がしています。

これまで、延べ二〇〇〇名以上の生徒が参加してきた玉川聖学院榛名

ワークキャンプは、成長を実感できる素晴らしいキャンプだと、あらためて感じる事ができました。新生会の皆様のご協力に心から感謝いたします。

(玉川聖学院中等部教頭 笠井洋子)



今年の夏は久しぶりの学生さんたちの訪問によってまた一つ大切な思い出を刻むことができ、人と人が交わることの大切さを実感できたひと時でした。来年の夏はぜひとも他校の学生さんたちの訪問がありますように。私たちもその時を楽しみにしております。今回来会いただいた四校の皆様、ほんとうにありがとうございました。

ホームアラカルト

介護付有料老人ホーム 新生の園

ドライブツアー

新生の園では、今年度から普段お出かけが難しい方を中心に、近隣へドライブに出かける企画を始めています。九月は長坂牧場と鼻高展望花の丘へ行ってきました。お天気の中ドライブです。コスモスはどうかなと車中から眺めますが、まだ、つぼみの段階。時期がちょっと早かったようですが、満開のひまわりを見ることができました。牧場ソフトクリームも「おいしい」「おいしい」とペロリ完食です。



ひまわりパノラマ



暑くて溶けちゃう

これまでも道中でお花や自然、街並みを眺めつつ、喫茶店などでちよっとお茶をしようと、ゆるーく企画しています。花より団子になりがちですが、それもお出かけの醍醐味ですから、ふらっと気軽に今後も続けていければと思います。

(中澤一夫)



美味！ジェラート



榛名湖畔にて

健康型有料老人ホーム マリヤ館

お茶の会

梅香ハイツマリヤ館居住者を中心に、梅香ハイツには「お茶の会」があります。活動は月に二回で、マリヤ館の喫茶コーナーでお茶菓子とお抹茶を、気取らずに楽しんでいきます。梅香ハイツ居住者と職員も参加でき楽しいひと時を過ごしています。

この度、新生会の茶室「野秀庵」に茶道具一式として畳に座らず腰かけてお茶を行える道具をご寄付頂きました。それに伴いまして、お茶の会では、「野秀庵」を使い、新生会全体から参加できる「お茶の会」を始めようという運びになりました。形式ばった茶道ではなく、誰でも気楽にお茶が楽しめる事を目指しています。



八木さん退職

九月三〇日、前マリヤ館館長でウエルカムセンター長の八木登美江さんが退職なされました。

三〇年以上にわたる梅香ハイツへの献身に、居住者・職員共に、感謝の念に堪えません。御年八六歳「この歳になって居住者の悩みが本当の意味で理解できるようになった。」と言い、居住者に寄り添った姿勢は職員の中に生きていくと思えます。八木さんの健康とご多幸をお祈りします。そして、梅香ハイツの事で相談することもあると思うので、よろしくお願ひします。(原 孝洋)



介護付有料老人ホーム
穂和の園・桜の園

里見の梨狩りとソフトクリーム

九月一日、恒例の梨狩りに出かけました。夏も終わりにきらない今年の異常気象で、当日の天候も心配されましたが、幸いにも雨も降らずにいざ出発です。道中車窓からは頭を垂れ始めた稲穂や空を流れる雲の姿に、少しずつ夏の終わりを感じていました。



梨狩り楽しかったよ!

さて、現地に到着し、いざ梨狩りの始まりです。店員さんの丁寧な説明を受けると、少しでも大きな梨や色見のよい梨を吟味しながら、各々手に取り梨を持ち上げるといとも簡単に梨を収穫できました。取り終わってから辺りを見回すと、「こっ

ちの方が良かったかな」といった声も聞かれました。その後、売店では試食用の豊水と秋月を職員が手際よく剥くと、皆さんそれぞれの梨の感想を話しながら、甘さ満点の梨を堪能されていました。また、売店では梨を送られる方も多く、「この梨を

お願いします。」と店員さんとのやり取りで大変な賑わいでした。そして、今シーズンからこちらの梨園ではお洒落なテラスとカフェがオープンし、好みのソフトクリームを買い求めると、赤城山や榛名山が眺められるテラスで、思い思いにソフトクリームに舌鼓を打たれ、甘さ倍増の時間を過ごしました。次回はカフェだけでも楽しみたいですね。

(石田健二)



ソフトクリームも最高!

軽費老人ホーム
バルナバ館

ボランティアの季節

今夏、四年ぶりにボランティアの方を迎える事が出来ました。平成一七年・長期社会体験研修で研修された宮崎文江さん。それを機にコロナ禍を除く年月を継続してボランティアに来て下さっています。

「なぜ毎年来て下さるのか」という愚問にも爽やかに一言。「なんでも感謝できるような歳のとり方をしたい。ここへ来るとそれを感じる事ができます。また少しでも誰かの役にたきたいという思いも…」

あの日からもう一八年、このご縁に感謝しつつ、猛暑の中のワーク、本当に有難うございました。



蒸気暖房のお掃除です

七夕飾り

今年もまた恒例の有志による七夕飾り作りを行いました。一つ一つ心をこめて美しい作品を作り上げていく様子は、華麗なアート集団のよう。「出来上がる喜びを感じます。折り紙は色や柄が色々あるので、その組合せの楽しみもあるんですよ。」有志の方の感想です。

年々作品の美しさが極まっているようです。また集う事の楽しさも相まって、八月末には有志による「折り紙の会」が発足しました。玄関の他、各階の談話室横にも小さな七夕が飾られました。三階の七夕に面白い短冊を発見。「うつくしや障子の穴の天の川」小林一茶の作品ですが、なんとも不思議な空間が広がります。来年はぜひ「七夕アート」をお見逃しなく。お待ちしております。

(山崎祐子)



七夕飾り完成です!

軽費老人ホームA型
榛名春光園

フル規格の夏祭り

コロナの影響により、頭を悩ませたここ数年。『食事中心』『ハワイアン』『バイキング&バーベキュー&縁日もどき』榛名春光園にて行われた夏祭りのメニューです。春光園職員が様々考え出した、企画に献立。居住者だけではなく、職員も一緒に楽しめる内容を考え始めて四回目の夏。この二年はリモート交流でしたが、今年は来園・生出演の玉川聖学院の生徒さんを加えての夏のひとときとなりました。

第一部は、食堂を縁日会場に衣替えしての模擬店遊び。駄菓子屋さんをはじめ、輪投げに的当て、水ヨーヨーとかき氷。祭囃子に誘われて、老若男女問わずチケットもらって大喜び。「うまく投げられるかな」「あつ、切れちゃった」「こんなにもらえるの?」「麩菓子、懐かしい」普段の遊びやおやつとは大違い。選んで、狙っての大忙し。甚平姿の屋台の店員さんも、笑顔と甘さが溢れてきます。ビニール袋にお土産一杯詰めて、大満足でのお帰りとなりました。

第二部では、夕食の時間の大会。数年ぶりで、生ビール用サーバーを

準備。春光園自慢の調理スタッフが腕によりをかけて、バイキング料理を用意。煙も匂いも食べてもらおうと、焼きそばを作るコーナーも出現。満腹になると、玉聖生徒さんによるアトラクションの時間です。話あり、歌あり、懇談あり。そして、浴衣姿の生徒さんに、「可愛い!」と声掛ける居住者も見受けられました。

数年ぶりに訪れた新生会に、感無量な様子。ボランティア派遣先が春光園でない生徒も、この時ばかりは祭りの雰囲気全開です。時間が経つのも早いもの、生徒さんに見送られ、祭りの後は夢の中。(伊藤光宣)



一部は縁日!



二部は歌の披露です♪

養護老人ホーム
恵泉園

恵風和暢

清々しい秋の気配が感じられるようになりましたが、各所ではまだまだ暑い日もあり、吹く風もどことなく爽やかさがありません。そんな中、漏れなくアツくなっている恵泉園は、敬老のお祝いを兼ねた誕生茶話会を行いました。

普段であれば、季節ごとのデザートを追加して毎月の誕生者をお祝いしますが、九月は特別。華やかな装いに身を包み、テーブルに並ぶのは老若男女を魅了する絶品スイーツ。ご参加いただいている方の中には今年で御年一〇歳を迎えた方の姿もあり、茶話会に花を添えて下さります。さあ、腹ごしらえができたところ



溢れんばかりの宝石です。



いざ、真剣に。

でお次は血気盛んな玉運びゲームの開催です。各テーブルに分かれて端から端に円を描くように玉を運んでタイムを競うという単純明快なルールではありますが、単純ゆえに熱くなるところがミソになります。ゲーム終盤には、「早くして!」「何してるの!」など声も上がるようになり、ボルテージは最高潮へ。終わった後は拍手をして互いに健闘をたたえ合っていました。こうして分け隔てなく、ざっくばらんに関わり合えることが恵泉園らしいのではないのでしょうか。

榛名の南山麓の中腹にある恵泉園。山麓ならではの涼しい風だけでなく、穏やかで心地の良い風が吹き渡っています。(新井溪司)

特別養護老人ホーム
榛名憩の園

涼を感じる

記録的な猛暑日が続いた今夏、涼を求め集まる入居者の皆様。これから始まるのはかき氷大会！ベテラン選手なにかき氷機を設置し、さあ開始！勢いよくハンドルを回し、あつという間に氷の山ができました。「すごいでしょ」と満足げな笑顔が輝いています。今回用意したシロップはイチゴにメロンにカルピス。昨今流行りのクリームやフルーツはありませんが各々好きな味を少し多めにかけて出来上がり。「冷たい〜！やっぱり夏はかき氷ね〜」と久しぶりの冷たさに驚きながらも皆様笑顔で完食です。自分で削ったかき氷の味は格別だったようでおかわりの声がちらほらと。短い時間ではありましたがひと夏の思い出となりました。



夏はやっぱりかき氷

カいっばい削ります



真心こめて…

「金の卵」とは一体何なのでしょう？憩の園四階の入居者である井草さんの毎年恒例となっている○○の栽培。今回の○○は八万八に出向き、ご自分で種を選んだとのこと。栽培を始めてからはまるでわが子を育てるかのよう。大きくなっていくほど嬉しげな姿が印象的でした。そして来る八月二四日、遂に収穫です。「金の卵」の名に恥じないほどの黄色い球体をニコニコしながら収穫し、いざ美食!!包丁を入れると中身は真っ赤なスイカではありませんか！外と内のギャップに驚きながらも食べてみるとなんと甘いこと。皆で「美味しい!」と口をそろえて伝えると「ふふっ」と照れ笑い。大成功に終わった二〇二三年の夏。井草さんに「来年もよろしくお願ひします」と声をかけた時の「はいよ〜!」と答えた背中はいつともより大きく見えました。(富田敦貴)



輝く笑顔と真っ赤なスイカ

特別養護老人ホーム
誠の園

もう一つのワークキャンプ

共愛学園高等学校ワークキャンプの期間中に誠の園で一人の大学生が参加しました。彼女は共愛学園高等学校の卒業生である板場美帆さん。現在は桐生大学で看護学を学び医療従事者を目指しています。

共愛学園は昨年の夏に宿泊を伴わずに誠の園で二日間のボランティア体験を行いました。彼女は諸事情によりその期間での参加ができませんでした。そのため今年の共愛学園ワークキャンプに卒業生として参加されていました。

持ち前の明るさと旺盛な好奇心に加え、大学での研鑽により専門的なスキルを身に着けた彼女の居住者への関りは見事なもの。彼女の笑顔は関わる居住者全ての方に波紋のように広がり、和やかで素敵な雰囲気を作り出していました。

大学での学びと病院実習の経験を経ての彼女は、他の後輩たちとは少し違う専門職としての視点からも学んでいました。実際に誠の園で働くスタッフとの交わりを通してケアの本質を再確認しつつ、将来の自分を形作っているようでした。

彼女の振り返りの文章には、「私



最高の笑顔が一番のケア

にとっては一年越しとなる念願のワークキャンプ。ほんとうにたたくさんのことを積極的に学ぶことができ、心の距離を近くにおき、相手を尊重してしっかり寄り添ったケアを行うことが大切であるということとを改めて学びました。後輩たちの頑張っている姿を見て勉強になったことも多くありました。ここでの経験は私の宝物になりました。関わっていたいただいた全ての方に感謝を伝えます。ほんとうにありがとうございます。と綴ってくださいました。支えあい・分かち合い・育み合うことのできるワークキャンプ。学生さんたちのひたむきな姿は私たちスタッフにも大きな影響を与えてくれる大切な時間です。(若林 毅)

特別養護老人ホーム
エンジェルホーム

一〇〇歳の時を重ねて

エンジェルホームでは、大変喜ばしく、おめでたいことがありました。

九月一八日の敬老の日に、今年一〇〇歳の誕生日を迎える清水はつさんのもとに、高崎市から慶祝訪問がありました。慶祝状と、記念の銀杯とお菓子、そして、お祝い金を受け取られ、この日のために、事前に職員手作りのくす玉を準備して、ご家族も来て下さり、盛大にお祝いすることができました。

毎日、お変わりなく過ごされ、食事も三食召し上がり、声をかけるとうなずかれ、ときどき「ありがとう」と、感謝の言葉を伝えて下さいます。美味しいものは口を大きく開けて召し上がり、周りの様子が大変気になるようで、顔を右に左に向けながら職員の動きを眺めています。ただ眺めているだけなのか、心の中で何か



百歳おめでとう♪



百歳のお祝いに立ちあえて感激♪

を思いながら眺めているのか、一〇〇歳の瞳の中に写る私たちは、どんな感じなのでしょう。「今日も良くやつてるね!」と思ってももらえるような声のかけ方や接し方、言葉遣い、また安心して頼ってもらえるような対応ができていますでしょうか?一〇〇歳まで生きていられることは、本当に容易なことではなく、大変なことも沢山あったと思います。清水はつさんは、いつも大変穏やかで、はつさんの周りには、時がゆっくり流れているように感じます。

いつもどっしりと構えていて、何が起きてても動じない。そんな清水はつさんが、これからもご飯を美味しく召し上がって、カゼも引かずに、毎日をゆっくりとした流れで、このエンジェルホームで過ごしていただけることを願います。

(塚越亜由美)

HALC自然学校

はるな自然体験クラブの活動

八月二三日と八月二五日のお出かけ自然体験は、長野松代大本営を巡り平和を思う旅と題して、外気温が三〇度を超える猛暑の最中を二〇一八年以来、五年ぶりに再び松代へ行きました。

松代大本営地下壕は、太平洋戦争末期、本土決戦遂行と国体護持のために天皇や軍部、政府機関を移転するため、長野県長野市松代町に掘られた地下坑道の総称です。



象山地下壕での説明

二日間合計で会員参加者が二二名、付き添いスタッフが一六名の総勢三八名が参加しました。

象山地下壕では、現地のNPO法人松代大本営平和祈念館のガイドさんの説明に耳を傾けながら約五〇〇mを見歩きました。会員の方の多くは戦時下において幼少だった当時を

思い出し、ここで強制労働を課された人々に思いを馳せて、争いのない世界への祈りを新たにしていました。

昼食は地下壕から徒歩五分の「心幸食」(しんこきゅう)で、地元朝採れ無農薬野菜と無添加調味料のお店を予約し、和食を堪能しました。



昼食オーガニックメニュー

午後は、象山地下壕から車で一〇分の舞鶴山仮皇居(天皇・皇后・宮内省が入る予定だった)を外から見学。



舞鶴山仮天皇御座所

後日、参加者から平和を希求する思いが数多く寄せられました。

(稲垣 仁)

こがげ

MUTSUMI FES

七月二一日、心泉の家にて睦会恒例の夏祭りが開催されました。

コロナ禍でお休みして、久々の開催となった今回は『MUTSUMI FES』と銘打ち、プロのPAに音響設定をしていただき、五組の新生会職員アーティストたちが様々なパフォーマンスを披露する音楽に特化した企画となっています。

新生会の各厨房作のおいしい食事をいただきながら素敵な音楽を聴き、最初は遠慮がちだった参加者の皆様も徐々に一緒に歌い踊り始め、会場中が心地良い一体感に包まれました。

開催に際してご理解ご協力をいただきました近隣の皆様・演者・厨房の皆様、ご来場いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

(睦会副会長 鈴木昌子)



睦会日帰り旅行

東京デイズニールゾート

今回は十月六日に行われた、東京デイズニールゾートツアーをご紹介します。

薄暗い早朝の六時、三二名の会員が意気揚々とバスに乗り込む。車内は既にジャンボリーミッキー。開園ゲートのオープンと同時に二五人の美女と七人の野獣たちは魔法の物語に引き寄せられる。分刻みのスケジュールでアトラクションを一心不乱に乗り継いでいく一行はネバーランドの夢を追いかける。時間いっぱい夢の国を満喫した三二人は、帰りの車内でも魔法は解けず、幸せに包まれ現実へと戻って行った。

(睦会副会長 佐野仁久)



とある日の春光園。どこからともなく陽気な笑い声が木霊する。「今日は出勤なのね」居住者は自然と笑みがこぼれる。そう！彼女の名は、春光園が誇る看板娘、井上章子さんである。年相応の若さ溢れるそのキュートな美貌から居住者はもちろん、法



様名春光園
ケアワーカー
井上 章子さん

人内外でのファンも数えきれない...という事にしておこう。

そんな彼女は若かりし頃、何を思っただか中型のバイク免許を取得。近所を縄張りとして乗り回していたらしい。なぜ近所なのか？理由はただ一つ。彼女の別名は「ビビリの章子さん」少

もうひとりの私¹²⁴

しの物音でも女子力全開でビビりまくり。あまりの驚き方に周囲の居住者や職員まで彼女の反応に常日頃からビビりまくりなのである。いつしかバイクにもビビり始め、今や乗っていない。そんな一面を持つ彼女も、仕事モードになると、キャラが豹変する。特に居住者のこととなると、本気モードにスイッチオン。先輩、役職関係なしにはつきりと物事が言える肝っ玉母さんの一面も併せ持つ。実に頼もしい姉御肌な職員なのだ。

そんな彼女を職場で探し出す方法もただ一つ。笑い声がある方へ行くことである。そこには爆笑中のピーナスに出会う事ができるはずだ。まさに彼女には「笑う門には福来る」そんな言葉がフィットする。今後も春光園のアイドル的存在である彼女の活躍に大いに期待したい。

新 生 会 人 紹 介

- ①出身地
- ②職種
- ③趣味・特技
- ④好きな有名人
- ⑤自分にとって一番の贅沢は
- ⑥好きな言葉

有阪 望 (アリスカ ノゾミ) 33

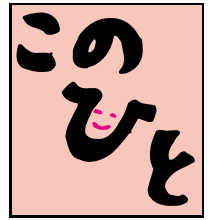
桜が丘看護課



- ①群馬県
- ②看護職員
- ③テレビ観賞、ファッショヨン、美容
- ④ジョングク、目黒蓮
- ⑤1日中ダラダラすること
- ⑥一期一会

「誕生日誌」

・町田 湊斗
(まちだ みなと) くん
令和5年9月13日生まれ
(ジョージが丘食養課 町田 敏貴さん 第1子)



恵泉園
はせがわ
長谷川ノブさん
(九七歳)



養護老人ホームとしての恵泉園は、二〇二三年度末で事業廃止をする方向と

なりました。一九五七年に開園し、一九八八年、現在の場所に移転新築。以来六六年の歴史を歩んでいます。

今回はその半数近くの年数をこの恵泉園で過ごされ、時に厳しく時に温かく見守って下さる割烹着姿がトレードマークの長谷川ノブさんをご紹介します。

大正一四年埼玉県にて出生。農業、子守、女中等をしながら生活されてきました。場所を転々としながら、最終的には旧倉渕村に移り住み過ごされていたそうです。両親からは厳しく教えられたそうで、思い出すだけで震えてくるとお話しして下さいます。そのような厳しい幼少期を過ごされたからか、ノブさんは小さなことも気にされるところでも几帳面で真面目な方です。数十年前までは毎朝新聞が届くと誰に言われるわけでもなく、フロント、恵泉園、エンジェルホーム、新生の園と新

聞を分けて、取りに来た夜勤者に手渡すというのがノブさんの日課でした。当時はケアワーカーだった新生の園の柳沢園長が振り返りこう語ります、「毎

日仕分けては手渡してくれて律儀な人でしたよ。その際に、同じ里見の仲間同士一緒に頑張ろう、といつも言ってくださったことが印象的です」。

つり眉毛への字の口元、周囲をにらむ目つきはまさしく歌舞伎の見得の顔。一見して怒っているような表情や、とげとげとした口調からしばしば周囲とトラブルになることも。しかし実際は人の事を気にしすぎる余りに注意するだけで、それだけ気づきや思いやりのある方でもあります。信心深く、最近まで行われていた仏壇へのお供えと拝む姿に声をかけると、ご主人がそばにいて守ってくれているからとのこと。

恵泉園で過ごす日常も日に日に短くなってきています。やるせなさで胸がいっぱいですが、そんな態度だと怒られてしまうでしょう。いつだって大声で叱るように励まし、奮い立たせてくれたノブさん。そんなノブさんだからこそ、しっかりとした態度で臨めば、きつと喝を飛ばしながらも理解してくれることでしょう。どうか共に恵泉園を最後の日まで見守って下さいね。



高崎健康福祉大学 健康福祉学部 社会福祉学科 教授



今年六月に法人の評議員選任・解任委員会委員に就任されたのは、高崎健康福祉大学の

金井敏教授です。

金井敏教授は地元高崎市に生まれ、幼少期にカトリックの高崎天使幼稚園で過ごされました。公立の小・中学校を経て、新島学園高等学校へ進学され、進路を考える時期にいろいろ悩んだ末、同志社大学文学部社会学科社会福祉専攻に進学されました。ボランティア研究会に入部し、「森永ヒ素ミルク事件の被害者への訪問教育」に四年間携わりました。

卒業論文は「ボランティア論」その自由と創造性の確保のために、」の原点と言えるテーマです。『ボランティアはボランティアとして活動するのではなく、ボランティアになるプロセスがある。問題や課題やその活動の動機をしっかりと見極め、係わることによって、その対象となる人との共感が生まれます』。

大学卒業後、群馬県社会福祉協議会に入職。最初に配属されたのはボ

かない さとし
金井 敏 さん

ランティアアセンター課でした。新生会との出会いはこの時期です。

その後、地域福祉や群馬県福祉人材情報センターの運営に関わり、福祉の職場の人材確保システムづくりや職場のPRに尽力され、群馬の福祉の向上のために貢献されました。

三五歳の時に群馬県内社会福祉協議会の職員では第一号となる社会福祉士に合格され、その後、高崎健康福祉大学からオファーがあり、大学に転職されました。大学では戸惑うことが多かったのですが、教育以外に研究、実践を大事にしているという事です。今年で担当したゼミ生は一〇〇人を超え、新生会でも多くのスタッフが活躍しています。

生活信条として大事にしているのは「良心」。同志社大学の創立者の新島襄の教育の原点です。この言葉を卒業生に贈っているそうです。また、普段の生活のモットーは「夢は大きく、ゴミは小さく、階段は一段抜き」。

これからも金井教授とのご縁を大切にしていきたいと思えます。

クラブ紹介

フィットネスクラブ

新生会内で行われている、クラブ活動の一つ、「フィットネスクラブ」をご紹介します。

居住者の皆さんの日頃の運動不足の解消やリフレッシュを兼ねて、毎週月・水・金の週三回、心泉の家にて活動中です。現在は講師の早野先生のもと、各施設より八名の方が参加。和やかな雰囲気の中、皆さん楽しく体を動かされています。

まずはウォーミングアップのストレッチ。リズムに合わせて、時にはポールやチューブなども用いながら体を動かしていきます。四季を通じて自然の音、鳥のさえずり、流れる雲・風・空気を感じ心と身体で味わって無理のないプログラムで活動しています。

ご見学も受け付けておりますのでぜひお気軽にご参加ください。



木漏れ日の中でストレッチ



銀の鈴コーラス

半世紀以上に渡り続いている混声合唱団。それが「銀の鈴コーラス」です。昨年、藤山圭子先生から鎌田真美先生にバトンタッチし、新しいスタートを切りました。

毎月、第一・第三水曜日の午後、桜が丘芸術ホールへ新生会各ホームより集まって練習が始まります。

「とっても楽しいの月」とメンバーは笑顔で話してくださいます。新生会で巡り合った新しいお仲間とハーモニーを響かせる。昭和、平成、令和と半世紀以上に渡り、生き抜いてきたその人生が、音楽に深みをもたらし、聴く人の感動を誘います。

時代を超えて歌い継がれる名曲や、新しい曲もレパートリーです。団員は男女とも絶賛募集中！噂される定期演奏会が楽しみです。



季節の歌などを練習中

詩歌

霧雨を

集めて配る追分沢

葉かげで蝶が拍手している

オーサム

初恋の彼女は今や八〇才

梅雨明けを今知らされてつゆ知らず

暑さ故 服の着替えに追いやらる

榎とは夏の木と書く一里塚

通り雨私の悲しみ運び去る

蛙の声我も乗せられハーモニ

丸山輝雄



ケアに生きる (150回) エンジェルホーム ケアサービス 富田 優太

私が新生会に就職し、八年が経ちました。私は高校から大学までラグビーに打ち込み、力には自信があったので、この力を直接、人のために使いたい、たくさんの方を喜ばせたいと思い、介護の仕事に就きました。 エンジェルホームにケアワ

カーとして就任し、はじめは右も左も分からず、居住者の方々とどう接していけばいいのか悩むこともありました。先輩たちが優しく丁寧に教えて下さり、介護の難しさとともに、その面白さも感じるようになっていきました。

中でも、特に印象に残っている居住者がいます。その方は目が見え、大変難しい方でした。何か気にならないと、食事を召し上がらないことがありましたが、私の声を覚えてくれていたのださう。私が声をかけると、嬉しそうな表情になって、食事を食べてくれることもありました。 私たちがかわかるのは、居住者の人生で、ほんのひと時かもしれないけれど、一緒に楽しく笑った時を寄り添えることは、私にとっても貴重な経験であり、この仕事をしています。本当に良かったと思う瞬間です。

一昨年はケア課の主任となり、昨年は、同じエンジェルホームの職員と結婚し、今年には双子の男の子を授かりました。公私ともに責任重大となり、これからはさらに一瞬一瞬を大切に、しっかりと居住者の方と向き合っていきたいと思っています。

マリヤ・シユガー

今日からは別居暮らしになりけり

あなたは「誠」私は「マリヤ」に

夫の病い難病なれば術なくて

医学書通りに進む切なさよ

特養に入居の夫に仕度整える

吾子の巣立ちに似て寂し

福田絃晴

夕陽浴び蜻蛉とび交ふ残暑かな
はや秋のもう秋風の老い急かす

新生日記

〈7月〉

- 1日 ぐんま夏の就職フェア出展 (Gメッセ群馬 2名出席)
- 6日 お散歩自然観察会
- 11日 お散歩自然観察会
- 19日 お散歩自然観察会
- 20日 群馬パース大学福祉専門学校 就職相談会
- 25日 職員採用試験
- 28日 お散歩自然観察会
- 1日 ぐんま夏の就職フェア並びに祝会 於…ホテルメトロポリタン高崎 永年勤続表彰者
- 〈8月〉
- 1日 就職説明会
- 5日 バルナバ原正男・ルツ原ツヤ 逝去記念礼拝 於…榛名聖公会
- 8日 お散歩自然観察会
- 16日 Gターン!ぐんま若者応援就職面接会出展 (Gメッセ群馬 2名出席)
- 19日 ユニ・チャーム排せつ研修 3名参加
- 19日 お散歩自然観察会
- 19日 群馬県介護就職説明会出展 (JAビル 2名出席)

23日

お出かけ自然体験(行き先…松代大本営 参加者14名、付き添い9名)

21老福連ZOOM研修「特養入所原則要介護3以上の問題を考える」1名参加

お出かけ自然体験(行き先…松代大本営 参加者7名、付き添い15名)

SOELCOMMUNITY ZOOM研修 2名参加

お散歩自然観察会

インボイス・電子帳簿保存法 対応解説セミナー(株)CWM 総合経営研究所 税理士法人 CWM総研大宮オフィス 3名参加

老人福祉施設協議会関東ブロック研究会 3名参加

お散歩自然観察会

職員採用試験

秋の募参会 参加者46名

新生会職員研修 20名参加

福祉の仕事フェア2003就職相談会出展(イオンモール高崎 1名出席)

高崎税務署による税務調査

職員採用試験

お散歩自然観察会

外聖常心援助

－新生会後援会便り－

木々の葉も見事に色づく季節となりました。皆様から温かいお力添えをいただきまして、心より感謝申し上げます。今夏、若者がボランティアや研修に久しぶりに榛名の里を訪れてくださいました。今後とも、新生会諸施設の働きを覚えてご支援ご協力の程よろしくお願い致します。HALCセンター建設のための特別募金累計 16,767,128円 (2023年9月末日現在)

新生会後援会加入のご案内

- 個人会員 年間会費 1口 1,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。
- 法人会員 年間会費 1口 10,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。

募金の結果や使途につきましては小冊子「感謝録」にて毎年報告させていただきます。

寄付方法

郵便局からの振込み 振込口座 00160-6-48594 加入者名 新生会後援会 群馬銀行室田支店普通預金0075469 銀行からの振込み 名義 新生会後援会会長 中澤宏則

所得税等の減免手続きをご希望の方は、ご寄付くださる際にその旨を申し出てください。社会福祉法人新生会より寄付金領収書をお送り致します。



7月より、清泉の美容室がRianの濱名美咲さんを迎え新装開店いたしました。リニューアルした美容室で、皆さまのご利用お待ちしております。

ホームページ http://www.sinseikai.org/ E-mail human-office@sinseikai.org

編集後記

新生会には平和と人権について考えさせられる機会が日常にあります。今年の八月には居住者と一緒「松代大本営」見学に出かけました。朝鮮から強制労働を強いられた方々の想像を超える労苦を思い、今も続くロシアによるウクライナ侵攻、平和を希求する世界から発信されている声に共感を覚えます。簡単な生活に浸り切った自身を恥じると同時に日本人として史実に向き合うことの大切さを感じます。九月には新生会職員を対象とした研修会に参加の機会を得ました。意思決定のプロセスをグループワーク方式で行い、講師の西山信之先生の導きで、認識一致の為に、同じ景色が見えるように場を耕すことの重要性を学びました。争いのない世の中を願い、人と人が互いに尊重し合える関係を、自ら能動的に創る訓練を少しずつ積んでいきたいと思えます。(稲垣 仁)

表紙の写真

旧碓氷峠見晴台にて

新生 第46巻 秋号 発行日 令和五年十月二〇日 編集兼 社会福祉法人新生会 発行人 原 慶 子 〒370-3347 群馬県高崎市 中室田町五九八三 電話 〇二七三七四 一五一一